

第3学年＊組 音楽科学習指導案

指導者 清水 匠

1 題材名 旋律の変化を味わって

2 本題材の目標

- (1) 曲想と、旋律の特徴とその変化などの音楽の構造との関わりや、音楽の特徴とその背景となるイギリスの文化や楽曲が受け継がれてきた歴史との関わりについて理解する。(知識及び技能)
- (2) 旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 旋律の特徴とその変化が生み出す雰囲気や表情、楽曲の背景となるイギリスの文化や楽曲が受け継がれてきた歴史などとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、音楽に対する感性を豊かにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 B鑑賞(1)

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

(イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり

〔共通事項〕 (1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「構成」)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知① 曲想と、旋律の特徴とその変化などの音楽の構造との関わりを理解している。	思 旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態 旋律の特徴とその変化が生み出す雰囲気や表情、楽曲の背景となるイギリスの文化や楽曲が受け継がれてきた歴史などとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
知② 旋律の特徴とその変化などの音楽の特徴と、楽曲の背景となるイギリスの文化や楽曲が受け継がれてきた歴史との関わりについて理解している。		

5 題材について

(1) 題材観

鑑賞の活動においては、生徒が主体的に音楽を鑑賞し、音楽を形づくっている要素を聴き取ったり、その働きが生み出すイメージや特質を感じ取ったりした上で、友達と感じ取ったことを共有し合う対話的な活動を通して、さらに感じ方を広げ、音楽を形づくっている要素と自己のイメージや感情とを関連付けて考えることができるようになることが大切であると考えます。本題材では、旋律と構成を窓口として鑑賞を行い、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じていく。そして、知覚したことと感受したことの関わりや音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりを捉え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって鑑賞できるようにする。

本題材で教材とする「威風堂々第1番」(エルガー作曲)のトリオは、生徒たちにも馴染みの

ある旋律で関心をもって聴きやすい。小学校でも器楽の教材曲として取り扱われており、演奏経験をもつ生徒も多い。また、トリオと主部は対照的な旋律をもつことから、生徒が2種類の旋律を対比させながら、音楽を形づくっている要素と自己のイメージや感情とを関連付けて考え、旋律の変化を味わいやすいと考える。第1時では旋律と構成を窓口として音楽そのものに焦点をあてて鑑賞する。第2時は、第1時に捉えた音楽的な特徴をふまえ、楽曲の背景やイギリス人にとっての本楽曲の価値などについて考えをもつ。これらの活動を通して、楽曲の価値を多角的に捉え、自分なりの評価へと総括していけるようにする。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、明るく前向きで、音楽の学習に意欲的に取り組むことができる。前題材では、器楽（ギター）の学習を行った。男女ペアで協力しながら、支え合って技能を習得する姿が見られた。また、2年生の鑑賞の学習では、ベートーヴェン作曲交響曲第5番や、バッハ作曲フーガ短調などの鑑賞を通して、楽曲全体の構成や特徴をつかむことができた。一方、「交響曲第5番短調」（ベートーヴェン作曲）を教材に楽曲の曲想を感じ取る学習では、十分満足できる状況の生徒は、本学級を含め各クラス平均*名に留まった。生徒の記述を分析すると、第一主題に対して「悲しい感じ」「お母さんに怒られた」など、曲想を大まかなイメージでしか捉えられない生徒が多い状況であった。曲想からイメージ豊かに情景を思い浮かべることが難しい生徒が多く、また、感じ取ったことを言葉で表す経験の乏しさから、自分との関わりについて考えながら批評することにも課題があると考えられる。生徒の音楽を豊かに聴いたり、よさを味わったりする感性を育むと共に、自分の感じたことを言葉で表現する力を育てていく必要がある。

(3) 指導観

本題材においては、楽曲のよさや美しさを自分なりに評価し、言葉で言い表したり書き表したりして音楽を価値づけることができるようにしたい。批評文として表す活動を位置付けることで、理解したことや捉えた特徴などを根拠としながら自分なりの曲に対する評価を行うことができ、学習の総まとめとして聴き取ったことや感じ取ったことを自分との関わりの中で考え、整理することができる。指導においては、①楽譜の活用による旋律の特徴の理解、②板書の工夫（知覚したことと感受したこと、聴き取った特徴と感じ取った曲想をマトリックス状に整理）を講じる。また、音楽の特徴とその背景となるイギリスの文化や楽曲が受け継がれてきた歴史との関わりについて理解するための手立てとして、③タブレット端末を活用した調べ学習を設定する。「なぜ、『威風堂々第1番』を聴いたイギリスの方々はこのように盛り上がっているのか」という課題意識を共有した後、楽曲の生まれた背景や、演奏されている音楽祭について、歌詞が付いている理由などを調べる。イギリスの方々にとっての「威風堂々第1番」の価値を考えることで、より多面的に楽曲を捉え、よさや美しさを味わって聴くことができるようにしたい。

なお、次題材では混声合唱の学習を行う。本題材で学んだ旋律の特徴や楽曲の構成に目を向けながら旋律の特徴を捉え、歌唱表現を工夫できるようにする。このことにより、学習の連続性を生み出していきたい。

6 題材の指導計画（2時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知・技	思	態	評価及び評価方法等
1	1 本 時	目標：「威風堂々第1番」の旋律の特徴とその変化を知覚し、感受した曲想との関わりについて考え、楽曲の特徴について言葉で表現しながら、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 1 題材全体の見通しをもち、本時の課題をつかむ。 (1) イギリスの国民的音楽祭「Last Night of the Proms」での演奏映像の一部を視聴する。 ・みんなで国旗を振りながら歌って大盛り上がりしている。 ・中間部分をよく知っている。				・導入では、「威風堂々第1番」を観客も含めた全員で大合唱したり、演奏に合わせて国旗を振って盛り上がっている様子など、映像で鑑賞することで、イギリス人の楽曲に対する強い思いを感じ取らせ、本題材への関心を高める。

	(2) 全体を1度聴き曲の構成と大まかな特徴を捉える。 ・軍隊の行進みたい。 ・2つの旋律が繰り返されている。 ・A B A Bの形式だ。 (3) 本時の課題をつかむ。 感じの違う2つの旋律は、それぞれどのような特徴なのだろう。 2 旋律の特徴と曲想を聴き取り、友達と意見交換を行う。 《主部：A》 ・短い音が多い旋律、鋭い音色 ・シンバルがたくさん鳴って激しい ・軍隊の行進をイメージする 《トリオ：B》 ・なめらかなヴァイオリンの旋律 ・王様が褒め称えているイメージ 3 全体で旋律の特徴を整理する。 ・Aの短く刻むような旋律やシンバルの音が、勇ましい感じを生み出している。 ・Bのなめらかな旋律が、優雅な感じを生み出している。 4 再度、楽曲全体を通して鑑賞し、構成の変化を捉えることで、本時の学習を振り返る。 ・対照的な2つの旋律AとBが繰り返されながら、どんどん盛り上がっていく。 ・それによって、パレードがどんどん盛大になっていくような感じを生み出している。			○	態：曲想が変化したと感じたところで挙手をさせることで、全体の構成を捉えられているか見取り、難しい生徒には、友達を参考にしながら曲の区切れ目に注意して聴くように促す。【観察】 ・主部（A）とトリオ（B）のみを繰り返し鑑賞することで、旋律の特徴と曲想について重点的に聴き取れるようにする。 思：2つの旋律の違い（主部は弾む旋律、トリオはなめらかな旋律）を捉えられているか見取り、難しい生徒には旋律の特徴を図や図形楽譜で示したり、一部分を取り上げて音楽を流したりして旋律の特徴が捉えられるようにする。 【ワークシート、発言】 ・主部とトリオの旋律それぞれがどのような旋律の特徴を持っているか、どのようなイメージが思い浮かんだか、マトリックス状に整理して板書することで、音楽の構造と曲想との関わりに気付けるようにする。 ・「旋律」「変化」という言葉を用いて、特徴を説明する活動を行い、書き方のフォーマットを示しておくことで、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて記述できるようにガイドし、本時の学びを自分の言葉で表現できるようにする。 知①：【ワークシート】 ・提出後のワークシートで曲想と旋律の特徴とその変化などの音楽の構造との関わりを理解しているか確認する。支援が必要な生徒にはポイントとなる事項を加筆し、生徒が次時の初めに確認できるようにする。
2	1 本時の課題をつかむ。 (1) 「威風堂々第1番」の特徴を振り返る。 ・対照的なAとBの旋律が繰り返されながら、盛り上がっていくイメージの曲。 ・イギリスの方々が、国旗を振って大盛り上がりしていた。 (2) 本時の課題をつかむ。 なぜ、「威風堂々第1番」を聴いたイギリスの方々はこんなに盛り上がっているのだろう。			○	

	2 インターネットを用いて、楽曲の生まれた背景や、イギリス人にとっての意味を調べる。 ・Bの部分についていた歌詞は、「希望と栄光の国」という題名が付いていて、イギリスの繁栄を願った歌詞になっている。 ・イギリスの第二の国歌とも言われている。 3 調べた内容を全体で共有する。 4 再度全体を通して鑑賞し、本題材のまとめとして批評文を作成する。 【予想される生徒の批評文例】 《威風堂々 第1番》という曲は、イギリスで第二の国歌と言われるほどとても有名な曲で、毎年行われるコンサートでは、みんなで国旗を振って盛大に合唱する曲です。みんなが大好きな曲と言えます。 この曲は2つの対照的な旋律が繰り返されながら盛り上がっていく特徴があります。一つ目の旋律は短い音を鋭い音色で奏でて、勇ましい感じがします。2つ目の旋律は、ヴァイオリンの音色がなめらかに、優雅な感じです。この勇ましさと優雅さが、互いに影響し合って盛り上がり、最後は華々しく終わっていきます。 私は2つ目の旋律がとても素敵だなと思いました。みんなで大合唱して、自分の国を称えるに相応しい旋律だと思いました。				・事前に、生徒が理解しやすく本時の学びに最適なWebサイトを複数ピックアップしておき、生徒にリンクを提示する形で行う。 知②：【タブレット端末メモ】 ・楽曲の特徴、感じたイメージ、曲の背景、自分なりの評価の、全てを踏まえられるよう、批評文のフォーマットを指定し、2時間の総まとめができるようにする。なお、生徒の実態に合わせて、ひとまとまりの文章ではなく、項目ごとに分けた文章でもよいとする。 思：【批評文】 態：【批評文、観察】 ・次時からは、混声合唱の学習に取り組んでいくことを伝え、本題材での学びがどのように生かせそうかを問いかけ、学びのつながりに気付かせていく。
次 題材	混声合唱 旋律の特徴や楽曲の構成を生かした歌唱表現を工夫する。				